

平成24年度 第2回図書館協議会会議 会議録要旨

平成24年10月23日（火） 15:00～17:00

会 場： 図書館 会議室

出席者：（委員） 乙犬委員・宮川委員・高秀委員・平井委員
清水委員・近藤委員・宮崎委員
（事務局） 寺崎教育部長・中井教育部次長・内藤課長
山下主査・谷口主査・黒氏主査

1. 開 会

2. 挨 拶

寺崎教育部長

日頃から、図書館の運営に関してご意見をいただき感謝申し上げます。事務局の方で読書条例のたたき台を作り、議会またはそれぞれの関係する団体の方から、ご意見をいただくということで、この時期に動いています。また、パブリックコメントという形で、市民の皆さんからご意見をいただくという形のものも取っており、来年4月1日には、条例を施行したいと考えています。また、このような条例があるところは少なく道内では先進的なところに位置するかと思っています。

今日は、この他にもいろいろな報告等もありますが、メインはこの読書条例に関することだと思います。できるだけ多くのご意見をいただいて、素晴らしいものにしていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

3. 報 告

1) 黄金ブックスステーションの運用開始について [事務局 説明]

・ 9月16日 オープン

・ 9月中の開館日数 14日間 ・ 9月中の貸出人数 116名

・ " 貸出冊数 249冊

・ 1日当りの利用者数 約 8名 ・ 1日当りの貸出冊数 約18冊

・ 返却冊数 178冊 ・ 予約受取冊数 369冊

2) 図書館開館20周年記念図書館まつりについて [事務局 説明]

・ 開催日 10月6日（土）～7日（日）

ステージ発表：大型紙芝居、大型絵本、影絵、合唱団合唱、マジック
劇団さっぽろ「泣いた赤おに」、腹話術他

6日：ステージ、屋外の移動動物園参加者数 約500名

7日：ステージ参加者数 192名

この他にも飛行機作り、おりがみ教室、お手玉作りなどの体験コーナー等も行われた。

2日間のイベント参加者数 1, 131名

" 図書館入館者数 2, 004名

3) 高齢者等図書宅配サービスの試行について [事務局 説明]

- ・ 期 間 8月1日(水)～31日(金)
- ・ 申込者数 14名
- ・ アンケート調査を含めた形で、今後に試行結果を出していきたい。

4) 第3回恵庭市小中学生調べる学習コンクールについて [事務局 説明]

- ・ 申込募集期間 9月6日(木)～10月5日(金)
- ・ 応募作品数 小学校 294作品 中学校 343作品
計 637作品
- ・ 審査委員会は第1回～第3回を実施のあと、最終の委員会を11月上旬に開催し、各賞の決定を行い、11月18日にRBパークで表彰式を開催する。

5) 平成24年度図書館窓口等業務委託実施状況評価の実施について [事務局 説明]

- ・ 窓口等業務委託 ～ (株) 図書館流通センター
- ・ 評価の実施 4月～9月までの上半期について、今、取りまとめを行っている段階である。また、図書館利用者アンケート調査は12月初旬に実施する。

4. 議 題

1) 「(仮称) 恵庭市人とまちを育む読書条例」素案について [事務局 説明]

○質疑・意見交換(要旨)

[前文について]

- 会 長 前文というのは、格調の高い文章で良いという意見と、中学生程度でわかる文章であり難しくなく、親しみやすい文章という二通りの流れがあると思う。この文章は、わかりやすく市民の誰もが読んでも理解していただけるような非常に親しみやすい文章になっていることで、私はこれを基本的に評価したいと思う。委員の皆さんは、どのようにお考えになりますか。
- 委 員 格調が高い文章というのは、得てして文語体を使った難しい文章になりがちで法律に多いですね。市民の皆さんが、条例の主旨をわかっていただくことが大切だと思う。わかりやすい文章ということに主眼を置いた、この前文は概ね基本的な方向としては正しいのではないかと思います。
- 委 員 述べている内容は正に良いと思うのですが、文章のセンテンスが長いので、もう少し簡潔的にわかりやすい文章が良いのではないかと思います。
- 委 員 文章よりも、こういうことができる自体が、とても嬉しい。やはり読書に関しては恵庭市は全国的には、先進的な役割を果たしてきているのだけれども、将来をどのようにつなげていくのかという基本たるものが、なかったことからこの条例を作ること、行政の中でも意識して取り組んでいってくれるのかと思う。
- 委 員 これを、いかにして市民の方々に定着させていくかであるが、その意味からして、この名称はとても良い名称だと思う。市民の方は、頭にある名称を見て恵庭市はこういう町なんだと思うので、名称を前面に出していけば

良いのかと単純に思った。

委員長 ホームページにワークショップの結果概要が掲載してありましたので、ひと通り読ませていただいた。非常に熱心に討議されて、皆さんに敬意を表したいと思う。質問ですが、私ども恵庭のまちは読書活動という点でいえば、おそらく日本全国でもトップクラスの自治体ではないかと思う。そういう実績があつて条例をつくるというような段階にきたわけです。昨年に条例をつくるという話がでた時に、後追いで宣言条例みたいな形だけあつて精神だけを謳うようなものであれば、実体が既に先行しているので、敢てつくる必要もないという話に、なりかねないということを申し上げた経緯を踏まえて申し上げたいのですが、今の日本全国の教育環境の育成の中で読書離れ、勉強離れという状況の中で恵庭市は、どのように取り組んできたのかということを前文のところに、少し必要ではないかと思う。ワークショップの論議の中でそういう話が出たのか、その点をお伺いしたいと思う。

事務局 もちろん、この市民ワークショップを開催するのにあたりまして、いろいろな情報を提供して話し合いを行っていただきました。図書館の活動をDVDを見ていただくことも含めて、いろいろ説明を申し上げたが、その中で全員でこれまでの恵庭市の読書の取組みについて、皆さんのご理解をしていただきました。こういうことが今に、こうなっている。だから、つなげていかなければならないというような話し合いが、随分と各回に亘ってされていました。恵庭市の読書という取組みは、市民とともに地域ぐるみで取り組んできたというところが、ワークショップの中でも大事なことでして話し合いが行われ、ボランティアの方の活動、それによって環境整備が豊かになったということを、前文に盛り込んだ内容にしたつもりです。

会長 最初の一行目に「市民とともに地域ぐるみで読書のまちづくりを推進してきました。」とあるが地域ぐるみを除き「市民とともに読書のまちづくりを推進してきました。」とはならないのか。地域ぐるみとは、どういう内容になるのか。

事務局 地域は、いろいろ捉え方があります。小学校の区域、中学校の区域では各小中学校のボランティアとしてPTAの人たちが非常に活発に活動していただき、ブックスタート、読み聞かせ活動も地域の子育て支援センターなどで、非常に熱心に読書の活動をしていただいていることなどを、地域全体で活動をしていることを表現しています。

会長 条例の中に定められた恵庭市と恵庭市民との読書活動に関するもの、基本理念のようなものが、もう少しはっきり出したいという感じがする。最後に「道標」とあるが、この道標という言葉がどうなのか。「どうひょう」で結節点とでもいうか。ここまできた、その土台を抜きにしては次はないという意味の「道標」なのか。恵庭市の読書活動の実績が、ここまできた、その実績から、どちらの方向に行くのか。その方向性として良いのか。また、地域ぐるみの表現ですが、恵庭市のある種の独特のユニークなものが見えてくるということでの意味であれば、「この地域ぐるみ」は外せないことになる。

- 委員 事務局が言われているとおり「地域ぐるみ」で読書の取組みが行われており、本当に恵庭市は小学校、中学校などの協力を得ながら支援を行い、地域が一緒になって取組んできて今があると思う。
- 委員 何年ヶ前に、全国の図書館の大会がここであった時に、当時のおかあさん方のボランティアが非常に多く、図書館との連携がすごいというお話しがあり、地域とのつながりが強いところであり地域ぐるみの言葉は、そのまま残して生かして良いと思う。恵庭市ということを考えた場合は、この前文は知る人にとっては知っており、大きなウエイトを示しているのだと思う。また、その具体性があとで出てくれば良いのではないか。
- 事務局 行政だけでは、こういう読書活動はできませんでした。市民の方もあり、先ほどのブックスタートや読み聞かせがあり市民というよりは、その地域その地域における様々な学校の図書における読み聞かせの方が、学校図書館の運営に関わったり、学校図書館の整備に地域の父母が関わったり、その体が人によっては個人だったり、小学校区の単位だったり、中学校の単位だったり、その地域単位の両輪で取り進められてきたという思いが、どうしても私たちにあり、こういう表現にさせていただいています。
- 委員 私は今年の４月に、恵庭市にきて若草小学校の開校以来の新聞記事で、「新聞記事で見る開校からのあゆみ」という冊子があり、開校１０周年で作られており、昭和６０年前後だと思うが、ＰＴＡの読書活動について文部科学大臣賞をもらっている。それは、地域ぐるみであり学校側が率先して行ったのではなくＰＴＡの方々のボランティアでの活動が評価され表彰を受けたのであり、つながっているという気がした。
- 会長 四行目に「次世代につなげていくことが」とあるが、つなげるという表現は消極的な感じがする。一層推進していくとか、積極的な見本的な内容を謳えば良いのではないか。つながりだけではなく、もっと深い広がりと深みを持たしていくということが、本来はこの前文に謳われるべき内容ではないだろうか。
- 事務局 もちろん、しっかりと今までの取組みを推進することがたいへん大事なことで考えており、継続維持し次にこれを発展させていくという流れで作っています。また、「道標」は、今までの実績をしっかりと見据えた中で、自分たちが進むべき道の方向性を決めるということになります。
- 委員 私は、この前文を背景と聞いた時に、今までの活動をわかりやすい言葉で誇示することもなく、大げさに表現することもなく本当に歩んできた事実をここに載せて、そしてこれから、つなげていこうというものであり、ワークショップの報告を見せていただいたが、本当に皆さんが意見を交わして、この文章になるまでの過程を解説していただき、なるほど簡単に決まったわけではないのだと思った。
- 委員 私も一回から全部、読ませていただいて、これだけ苦勞され論議されて作った条例案に余りものは言えないと思った。
- 委員 私はこのやわらかい表現は親しまれると思うし、誰もがそうだなうなづける前文であり、これが恵庭市の背景だと自信を持って言える前文ではないかと感じている。

〔目的について〕

- 会 長 「活力あるやさしいまちづくり」とあるが、やさしいという言葉がひっかかる気がするが、どう思われますか。今は何でもやさしいと言われていますが。
- 委 員 私も、どういう意図があるのかと思いましたが、読書から私の過去の経験からいけば、子どもにそういう気持ちを与えるのかと、そういうふう考えた。
- 事 務 局 人にやさしいとか、いろいろあると思いますが、この表現が、どこに向かってやさしいまちづくりなのか、具体的に見えてこないことが確かにあり、指摘されたとおりですので、削除に向けた方向で検討いたします。

〔定義について〕

- 会 長 一斉読書とはどういうことか。
- 事 務 局 一斉に行う読書活動であり主に学校での取組みを指し、朝読書や集団で読み聞かせをする学校での朝会なども含まれます。

〔基本理念について〕

- 事 務 局 基本理念と目的の位置関係ですが、基本理念を受けて目的がある形となる。基本理念を達成するためには、どうしたらよいか目的につながっていき、基本理念の方が表現としては少し大きな表現のものとなります。
- 会 長 感性というのがひとつわからない。自然と人間との一体感とか動物や単なる物に対しても深い愛情を覚えるとか、人の悲しみ、人の喜びを我が悲しみ喜びにするとか、そういう中身がここに入っているのかと読みさせていただきましたが、単なる感性だけでなく、より感性が具体的に感じられるように読み取れる言葉はないのか。
- 委 員 感性には、いろいろなものがあるが邪悪なものがあるとすれば、それは磨くものではない。読書をすることで、豊かになっていくものが私たちには多いと思う。
- 会 長 読書活動は、知的論理的と情緒的感性が大切だと考えている。
- 事 務 局 一応、この基本理念を持って「心豊かで思いやりにあふれ」という人間的な成長部分のところを目的で謳っており、読書活動でどういった人とまちの育みが行われるのかというのは、目的の方で読み取っていただければと思います。
- 委 員 会長さんが言われることが、わからないわけではない。ここの感性のところは情緒的と加えたらどうなのかと思った。感性よりも読書活動によって自然体験から得られるものをイメージしたり想像を膨らましたり、そこに涙があったり、怒りがあったり、それは読書活動から生み出される情緒的な感性を磨くことだと言いたいのだと思う。
- 事 務 局 余り具体化してしまうと、それでしか読み取れなくなってしまう、そこから多様的に使っていく時にある程度は、読み取りを広げるような表現が必要となります。
- 委 員 この感性を子ども達に教える時には、心を磨くと言いますが、より抽象的な表現となる。
- 会 長 「心を深め 磨き」はどうですか。心は磨くではだめであり、深め合わなくてはならないと思う。

事務局 「心を深め 磨き」を条例に入れるのには難しいと思いますが、事務局の方で検討します。

〔家庭の取組みについて〕

会長 家庭の中でコミュニケーションの言葉をもってくることに違和感を感じる。コミュニケーションに変わるアットホーム的な親しみやすい言葉はないのか。日本語の方が良いのではないのか。

事務局 家庭の読書で家読を進めているところですが、本を一冊、同じものを読んで会話をすることで、コミュニケーションを深めましょうというようなことで交流とか、ふれあいということを表しているということで使いました。家庭で親と子どもが、それぞれ本を読むのではなく、一冊の本を両者が読んでいろいろ感想を言い合う、若しくは子どもが読んだ感想を親に聞かせるなどをコミュニケーションという言葉を使っています。また、家読のほかに乳幼児は先ず家庭で本を読む楽しさを知るのです。おかあさん、おとうさんから本を読んでもらい読書の楽しさを最初に教えるのは家庭だと思います。

委員 コミュニケーションであらゆるものを包含するといえば、それまでであるが、基本的な文章のスタイルとして、誰もがわかるようなスタイルでいくと親子のふれあい、夫婦のふれあいとかいう言葉の方が家庭の取組みのイメージとしては良いのではないのか。

事務局 ブックスタートと家読の二つを家庭の中で表現できるようにした方が良いのかもしれません。恵庭市が家庭での取組みの中でブックスタートも力を入れてるし家読も力を入れていると読み取れるやさしい表現とする方向で検討します。

〔学校の取り組みについて〕

会長 ふるさととは、どういうイメージですか。

事務局 ワークショップでよく出ていたのですが、恵庭市のこの読書のまちという自分たちの町から、他の土地へ行って暮らして戻ってきた時に「ああ、恵庭は読書のまちだ。」というふるさとを誇りに思う気持ちを読書のまちで持ってもらいたいということがあります。また、いろいろな資料もあるので、ふるさとをこの読書活動で知ってもらおうということもあります。恵庭市の学校教育方針が今年に策定され、「ふるさと」がキーワードになっています。事務局の方で考えているのは、学校だけにこの「ふるさと」を求めるのではなく、総合的なところで求めるべきではないかということで、目的などに盛り込むことを検討しています。

委員 私も確かに、この学校の取組みだけで「ふるさと」が、どこも出ていなかったのので、ここに託すものなのかというのがあった。ただ読書活動をとおして本当に心豊かで思いやりのある活気のあるまちを目指した時、自分たちが生まれて育って、大きくなったところが、そういうまちであったなら、きっと離れても思い出さだろうし、私はこの「ふるさと」が、この条例の中に出てきたことが、すごく大事なことだと思った。小さい頃の幼児体験はいくつになっても思い起こされる。今ここにいる人たちもふるさととして思い浮かぶところが、絶対あると思う。今、自分たちのふるさとは確実に、この恵庭市になる。この条例の

中にふるさとという言葉があることは、大事なことだと思う。

〔市の取り組みについて〕

委 員 市の取り組みで推進計画を策定とあるが、推進計画はいつ頃になるのか。

事 務 局 来年度の２５年度を予定しています。

委 員 要望ですが、計画の策定にあたっては新しいものも取り入れるように市民の意見を聞いてほしい。

事 務 局 推進計画の策定は、策定委員会を立ち上げて、市民の皆さんと策定に向けた取り組みを行っていきますが、その都度、図書館協議会の方々にも図りますので、その都度ご意見をいただければと思います。

〔人とまちを育む読書推進月間について〕

全 委 員 異議なし

〔（仮称）恵庭市人とまちを育む読書条例の名称について〕

全 委 員 異議なし

○今後のスケジュールについて 〔事務局 説明〕

会 長 全体の議事を通して、何かご質問等はありませんか。ないようですので、以上を持ちまして、議事を終了させていただきます。長時間お疲れさまでした。